

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成28年7月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795400023		
法人名	株式会社ライフパートナー		
事業所名	グループホーム アムール忠岡アネックス		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府泉北郡忠岡町忠岡中1-5-26		
自己評価作成日	平成28年6月8日	評価結果市町村受理日	平成28年8月29日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は平成21年11月に開設しており、1階が小規模多機能ホーム、2階が1ユニット9名のグループホームとして運営しております。また、近隣には提携する医療機関などがあり、ご利用者様の体調の変化に即座に対応できる体制となっております。また、住み慣れた地域での生活を継続して頂くため、近隣のスーパーへの買物などを日課に取り入れることや、自治会等に協力を頂き、餅つきなどの地域活動への参加を積極的に行っております。また、年間、様々な行事(春旅行、秋旅行、バーベキュー、クリスマス会等)を企画し、その際にはご家族様にも参加していただくことにより、ご家族間での繋がりを持って頂くように努めております。本ホームの理念に「愛のある我が家のような生活を目指します。」「自由な環境を創造します。」「安心と信頼のホームを実現します。」を掲げ、常に職員が意識し、ご利用者さま、職員がともに「アムールにいてよかったな。」と思うことが出来るホームの実現に取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成28年6月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホームアムール忠岡アネックスの理念「愛のある我が家のような生活を目指します」「自由な環境を創造します」「安心と信頼のホームを実現します」を掲げている。年間の全体ミーティング、ユニットミーティングを通じて、今年度の目標、研修会、勉強会、行事等に関して、職員が率先して意見を出し合い、利用者へのサービス向上に努めている。家族には利用者と一緒に事業所行事に参加することで、家族の事業所に対する理解と協力を得ている。職員は利用者担当制を取っており、日々の利用者の様子や医師のコメントを月間報告書にまとめ「アムールたより」と一緒に家族に送り、利用者の生活状況がよくわかるように工夫している。事業所の近くに提携する医療機関やスーパーマーケットがあり、買い物などを通じて近隣の人々との馴染みの関係づくりを支援している。又、運営推進会議を通じ、参加者と地域の行事の情報交換を行うことで地域との交流が活発になり、だんじり祭、ふれあい大会、お餅つきなどにも参加している。また、避難訓練も地域と一緒にしている。このように事業所は利用者が満足できるサービス内容の確立に全職員が取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示している。スタッフの携帯する名札にも理念を印字し常に意識するようにしている。また、管理者、介護スタッフと随時意見交換を行い、理念にそった支援が行えるように努めている。	理念を事業所の玄関やリビングに掲示、職員の名札の裏面や事業所だよりなどに表示している。新人職員・パート職員にも入社時のオリエンテーションで理念を説明している。月に1度の全体ミーティング、ユニットミーティングを通じて、管理者と職員が意見交換し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会活動に参加。地域行事には積極的に参加を行っている。また、地域の防災組織にも加入し避難訓練にも参加。地域のスーパー等への日々の日課として買物等に出かけるようにしている。	地域の自治会に加入し、回覧板や広報紙が回ってくる。地域の事業、たんじり祭・ふれあい大会・餅つきにも積極的に参加している。また、地域の保育園の園児が事業所に来所し、利用者と交流を図っている。職員が地域の自主防災会に参加し、年2回の避難訓練にも一部利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通じ、認知症に対する理解を深めてもらっている。また、地域行事に積極的に参加することによって、認知症利用者との関わりを持って頂く機会としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地区福祉委員、社会福祉協議会職員、忠岡町介護保険課職員、ご家族さまの代表に参加して頂き、事業所の運営状況等を伝え、意見や助言を頂いている。	運営推進会議には、自治会長・民生委員・地区福祉委員・地域包括支援センター職員（町介護保険課職員）・老人クラブ幹事・家族代表等が参加している。事業所から利用状況などの報告、参加者から地域の行事等の情報提供を受け、双方向的な話し合いが出来ている。職員へは全体ミーティングを通じて報告している。	
	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	常に利用者情報を報告、また、緊急受入れを行うなど、市町村とは密に連携を行っている。また、運営推進会議にも参加して頂いている	町役場から困難事例の受け入れの相談依頼があり、事業所として利用者を受け入れている。成年後見制度を利用し、運営推進会議への参加もある。市町村とは密に連携を取っている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に係るマニュアルの設置。勉強会も実施。ホームの玄関は夜間のみ施錠している。ホーム内の扉については、できるだけ解除するようにしている。事務所内の解除ボタンは誰でも解除できるように常に事務所扉は開けている。</p>	<p>身体拘束に関するマニュアルも整備し、年1回法人本社で研修を行っている。スピーチロックについても日ごろの支援の中で気を付けている。利用者は1階と2階をエレベーター使用で自由に行き来できる。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止や各種制度について、定期的に勉強会を開催している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>身元のない利用者については成年後見人を付けての入所して頂き、後見人の方とも定期的にお会いし現状報告を行っている。また、権利擁護について定期的に勉強会を実施している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には重要事項説明書を用い、納得頂いてから契約を行っている。また、報酬改定等があった際には常にご家族さまに説明を行い、了解を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置やご家族様との面談を通じ定期的にご意見を頂ける体制をとっており、頂いた意見については、職員間で朝礼、終礼等を通じ伝達し共有できるようにしている。</p>	<p>面接カードには家族からの意見等の記入欄を設け、訪問時に職員が聴き取った内容も記録している。利用者・家族とは出来るだけ口頭でコミュニケーションをとるよう利用者担当制を取っている。担当職員は、日々の利用者の様子や医師のコメントを月間報告書にまとめ、毎月「アムールたより」と一緒に家族に送り、家族からの意見が出やすい環境を作っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼、終礼、各ユニットミーティングや全体会議によりスタッフの意見を聞く機会を設け、出された意見については運営に反映するようにしている。</p>	<p>ユニットミーティングや全体ミーティングで職員の意見を聴く機会を設け、運営に反映している。具体的には、職員からの提案を取り入れ、毎月の研修計画を作成している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回の定期的な評価、適宜行うスタッフ面談により職員の思いを聞き、その意見を元にやりがいを感じることでできる環境づくりに努めている。</p>		

13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社研修への参加、その他外部研修の参加を積極的に行っている。また、随時職員との面談を行い、職業人としてのあり方等を伝えている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>町内の事業所連絡会や他の研修会に参加するなど行っている。また、他事業所より定期的に本事業所にスタッフを派遣してもらい、様々な情報交換を行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始前に繰り返し面談を行い、職員間においても情報共有を図り、サービスの提供が行えるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前にご家族様との面談を行い、ご本人さまやご家族様の思いを把握するように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時にご自身の状態に応じて、必要なサービスの検討を行っており、必要に応じて他の制度の情報提供を行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活を行う上で、常にご利用者の思いを聞き、施設のルールの上で生活して頂かないように心がけている。また、家事等を行う際にはできる限り一緒に行うことを意識している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご利用者の現状を常にご家族様にお伝えし、常にケアを共に行うことができるよう努めている。また、施設行事については常にご家族様に声を掛け、参加を促している。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の日課の中に馴染みのスーパーや美容院を利用、また、散歩などを取り入れ、関係が途切れないよう支援に努めている。	職員は利用者が培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるように情報を把握し、支援している。日々の散歩や馴染みのスーパーマーケットへの買い物等に同行している。また、新しい馴染みの関係ができるように地域の人への声掛けなども積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調等を考慮し、フロアにて過ごしてもらい時間を多く作り、利用者同士の交流を深めることにより利用者同士の関係を深めて頂くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後についてもご家族さまと連絡を取り合い、必要に応じて転居先への情報提供などを行うようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談でご本人の思いを把握し、入居後についても常に思いを聞くようにしている。また、意思表示が困難な方については、以前の暮らしぶりなどをご家族様等から聞き取り、現状の暮らしに反映するようにしている。	収集した情報はミーティングで伝え、業務日誌や連絡ノートに記載し職員間で情報の共有を図っている。意思疎通の困難な利用者には、訪問時家族から聴き取った情報や本人の表情やしぐさから読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	面談前にご家族様等より現在までの生活歴等の詳細を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや食事量等を常に把握するなどし職員間で共有するようにしている。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー、介護スタッフ、主治医、ご家族さまとのカンファレンスを定期的に話し合い、ご利用者様の状態を把握し、現状に合わせた介護計画の作成を行っている。	介護計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い、3～6ヶ月で見直しを行っている。また、利用者・家族の要望や変化に応じて随時介護計画の見直しを行っている。サービス担当者会議には、計画作成者、担当職員、利用者・家族、主治医など必要な関係者も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙、(熱計表、2号用紙、管理日誌等)に日々の様子を細かく記入し情報の共有を図り、適宜、介護計画の作成・変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められたサービスの提供を流れ作業で行うのではなく、日々の体調等を考慮しその方にあったサービスの提供を行うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な社会資源を把握するよう地域組織や行政等と連携をとり、ご本人様の日々の暮らしに取り入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の定期的な診察を行っている。また、治療が必要な際には、主治医より別の病院を紹介して頂くなど、適切に医療を受けることができるように努めている。	馴染みのかかりつけ医の受診希望があれば利用者、家族を支援している。利用者の多くは事業所近くの提携協力医を主治医として受診している。主治医の往診は月2回、訪問看護ステーションの健康管理は週1回、歯科医往診は週2回ある。原則通院は家族同伴としている。受診結果は電話での連絡や訪問時に伝えることで家族と情報の共有を図っている。結果を朝礼で報告、個人ファイル、介護日誌に記載し職員間での情報共有に努めている	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	訪問看護ステーションと契約し、週1回の健康管理を行っている。また、訪問日以外にも本ホームにいる看護職員との連携も行い、適切な受診等につなげている。		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際には、ホームでの情報を医療機関に提供、また、早期退院に向けて、医療機関とのカンファレンスを行うなどしている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際も説明を行い、また、状態が変化した際にもご家族様等に十分に説明を行う。また、主治医にも相談しホーム、本人、ご家族、主治医等が方針を共有している。	入居時に利用者、家族と重度化した場合について文章化した指針に基づき話し合いを行っている。入居後、利用者の状態が変化した場合には利用者、家族、職員、主治医を交えて、その都度話し合いを重ね、方針の共有に努めている。今までに一人の利用者の看取り経験がある。	事業所が開設して6年を経過し、利用者の介護度も上がってきている。今後利用者の日常生活を支えながら、看取をしていく機会が増えると思われる。事業所主導で、看取りに等関する職員研修の実施が望まれる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを設置するなどしている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各マニュアルを作成、消防訓練の実施、地域の避難訓練への参加を行っている。	消防訓練は消防署立ち合いで年2回（内1回は夜間を想定）実施している。動ける利用者は参加している。地域の人達の参加はない。事務所内に緊急連絡先、職員の役割分担表が掲示してある。また緊急時と災害時対応マニュアルが閲覧しやすい所に置いてある。地域の避難訓練には職員は参加している。備蓄品には水、缶詰等があり訓練時に点検見直しを行っている。	災害時、消防訓練時に、近隣の人達からの協力が得られるような関係作りが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、接遇、ホスピタリティーマナーの勉強会を実施するなど、常に意識し取り組めるよう意識付けを行っている。	法人でプライバシーの保護や接遇に関する職員研修を実施している。また事業所の職員主導の研修でも接遇をテーマに勉強会を行っている。利用者の人格を損なわないように言葉使いには気を配っている。職員が不適切な言葉使いや態度があった場合には管理者、職員間でその都度注意を促している。個人記録は鍵の掛かった戸棚に保管している。	

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常にご本人様の思いを聞き取るように努めている。また、普段の関わりの中からご本人様の思いを表出してもらえ環境づくりを行っている。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>常に業務本位ではなく利用者本位を意識し、ご本人様が思うようなペースで生活して頂いている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>女性のかたであれば化粧を行うこと、男性であれば髭剃りなど、常に身だしなみをご本人様に意識して頂くことを重要視し、支援を行っている。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事づくり、配膳、下膳等について、できるだけご利用者者と共に行い、食べる楽しみだけではなく、作る楽しみなども感じて頂けるようにしている。</p>	<p>法人の管理栄養士が、季節感と栄養を考慮して献立表を作成している。食材は法人から配達され、職員が交代で調理をしている。利用者と職員と一緒に配膳、食事をし、下膳を行っている。不足した調味料等の食材は利用者と一緒に近くのスーパーマーケットへ買いに出かけている。食事に変化を付けるため、バーベキュー、外食や店屋物をとる等食事を楽しむ工夫をしている。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事形態への配慮、体調に合わせた食事量、水分についても体調に合わせ提供している。また、提供した食事量、形態、水分量については記録に残すようにしている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時や毎食後には必ず口腔ケアを実施。また、訪問歯科と各ご利用者様の口腔状態について情報共有し、個人に合わせた口腔ケアを実施している</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個人の排泄パターンなどについて、記録により把握するようにしている。また、定期的なトイレ誘導以外にも本人様の様子を確認し、適宜トイレ誘導を行い、トイレで排泄を行えるよう支援を行っている。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンと様子を見ながら、さりげなくトイレ誘導を行っている。利用者の個人的なトイレ状況を他の利用者に気づかれない様に配慮している。夜間は巡回しながらトイレ誘導を行っている。ポータブルトイレ利用の利用者はいないが、リハビリパンツを使用している利用者はいる</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘状態の改善の為、食事形態なども考え、決して内服のみに頼らないように意識して取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>意思の表出が可能な方については入浴を強制することなく、ご自身の判断で入浴時間等を決めて頂いている。また、意思表示の困難な方については、体調等を充分に考慮し入浴して頂いている。</p>	<p>入浴は週3回を原則としている。利用者は希望する時間帯に入浴できる。個浴でお湯は毎回取替え、湯加減も利用者の好みに合わせている。入浴剤を使用する時もある。介助は原則同性介助である。入浴を拒む利用者には入浴の時間帯を変えて声掛けしたり、清拭を行っている。利用者がリラックスして入浴を楽しめるよう工夫している。入浴は職員が利用者の身体状況を確認する上でも大切な場となっている</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間等を特に定めることなく、ご自身の判断にて就寝等を行っていただいている。また、日中についても定期的に昼寝をして頂くなど、休息を取っていただき過ぎていただくようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>内服薬についてはカルテに薬情を保管し、職員が把握できるようにしている。また、内服薬の変更等があった場合には常に職員間で把握できるようにしている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>家事を分担し行っていただいたり、気分転換等も兼ねて嗜好品の購入、散歩などを生活に取り入れるようにしている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>施設物品の買物にもできるだけご利用者様も一緒に外出したり、近隣の散歩に出かけるようにしている。また、年に数回は色々な場所へご家族様もご一緒に行く企画を立案している。</p>	<p>近隣を散歩したり、事業所で必要な物品やおやつを買いにスーパーへ出かける等気分転換を図っている。近くの喫茶店はお店の人や客と会話することもあり、利用者の新たな馴染みの場所となっている。神戸動物王国等普段は行けないような場所へも家族の協力を得ながら出かけられるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人のお金については事務所金庫にて保管しているが、買物の際にできるだけ自身で支払いを行って頂くようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>必要に応じ、ホーム電話から電話をして頂いたりしている。また、年賀状等についてもご本人様で記入できる方については行っていただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間の清掃を一日数回行い、常に清潔で気持ちよく生活して頂けるようにしている。また、フロアにも写真等を張り出したり、机などの配置に工夫をするなど落ち着いた生活できる環境づくりに心がけている。</p>	<p>住宅街の一角にある事業所は周りとの調和を保つように玄関は格子戸のさりげない佇まいとなっている。居間兼食堂の窓から程よい明りが差し込み、壁には行事、遠足の写真、絵画を飾っている。木製のどっしりしたテーブルと椅子を置き、落ち着いた雰囲気になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>席の配置等について、ご利用者様の人間関係を考慮したり、ソファを設置し、自席以外でも自由に過ごすことができるように工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使われていた馴染みのものを置くなどできるだけ落ち着いた環境づくりを行っている。</p>	<p>居室にはカーテン、エアコン、ベッド、クローゼットが備え付けられている。リネンはレンタルとなっている。ベッドの位置は自宅での習慣に合わせて置くように配慮している。写真、時計、テレビ、小タンスなどを利用者の動きの妨げにならないように置き、利用者が安心して寛げるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>館内はバリアフリーとしている。また、階段には手すりを設置し、昇降可能な方には階段利用、困難な方にはエレベーター利用をするなど、個別の能力に合わせて対応している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	①	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	①	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	①	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	②	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	②	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	②	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない